

医療と介護を繋ぐ

～病院と介護施設との連携強化の取り組み～

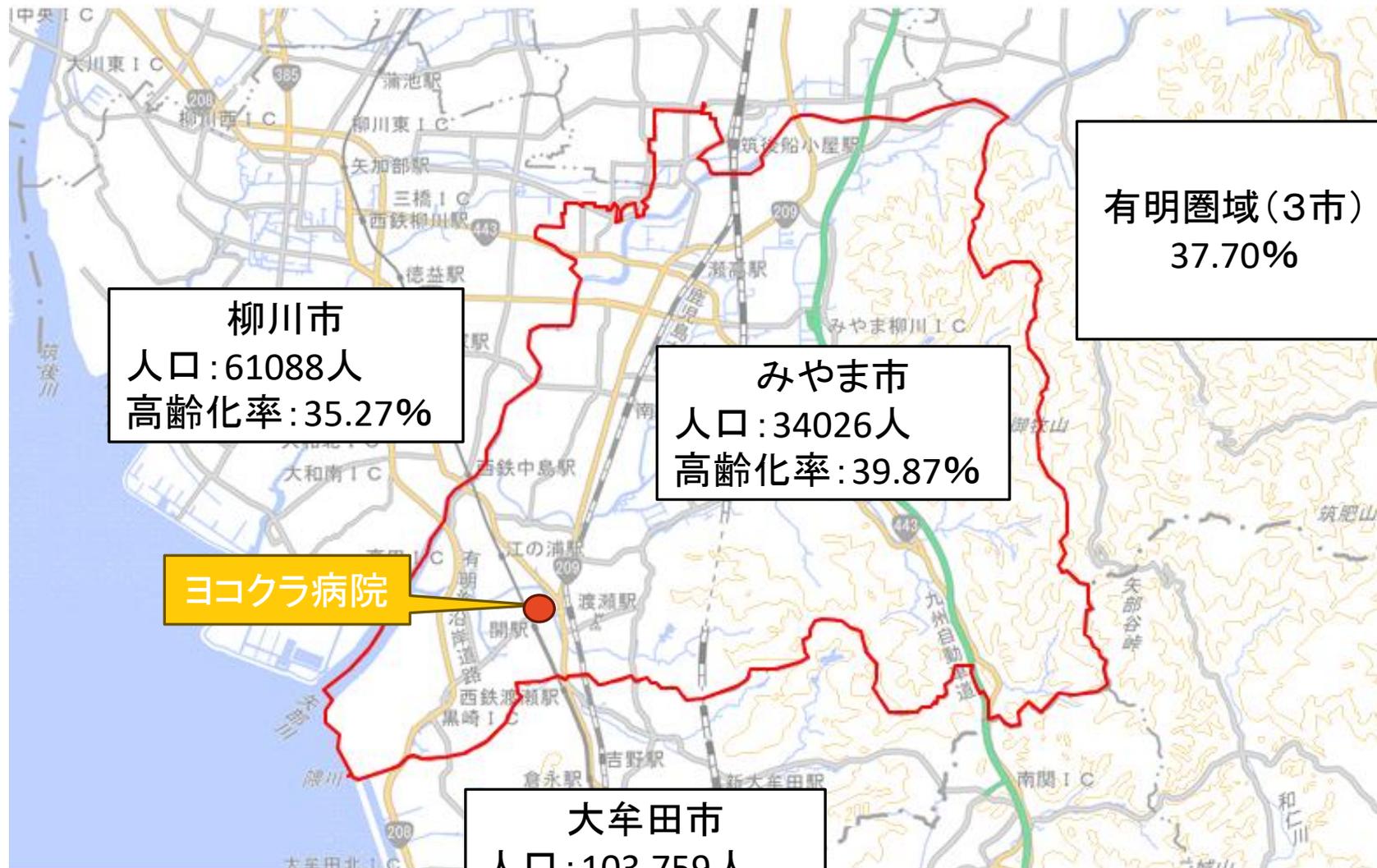
社会医療法人弘恵会ヨコクラ病院

地域連携室 野口

みやま市の現状



R7.4現在



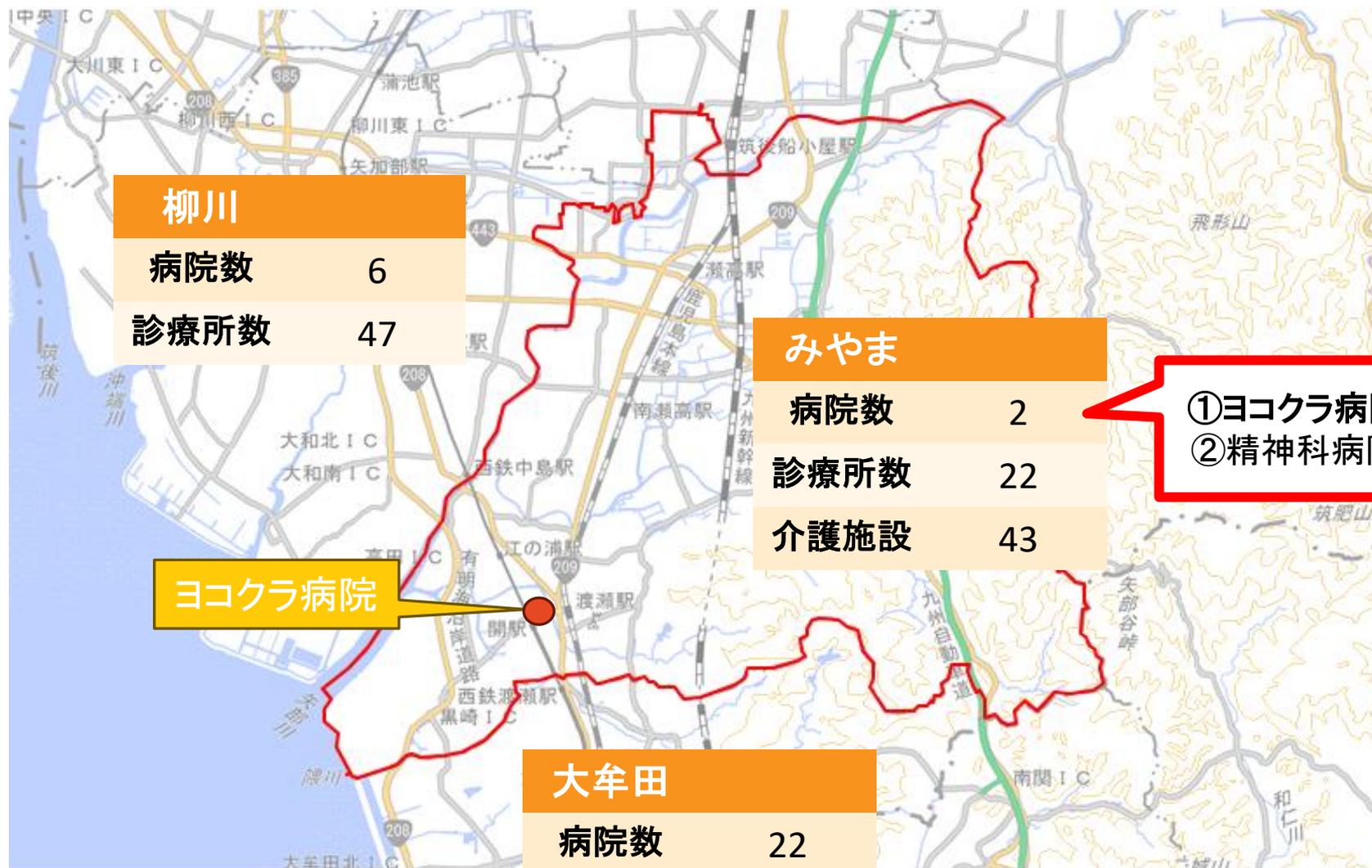
柳川市
人口: 61088人
高齢化率: 35.27%

みやま市
人口: 34026人
高齢化率: 39.87%

有明圏域(3市)
37.70%

ヨコクラ病院

大牟田市
人口: 103,759人
高齢化率: 38.41%



柳川	
病院数	6
診療所数	47

みやま	
病院数	2
診療所数	22
介護施設	43

- ①ヨコクラ病院
- ②精神科病院

ヨコクラ病院

大牟田	
病院数	22
診療所数	93

ヨコクラ病院



病床数 199床

- ・急性期病床 56床
- ・地域包括医療病棟 29床
- ・地域包括ケア病棟 44床
- ・回復期リハビリテーション病棟 40床
- ・医療療養型病床 30床

災害拠点病院
救急告示病院
在宅支援病院 等



ヨコクラ病院の
関連施設



介護老人保健施設
アルテンハイム



グループホーム
恵のいえ



在宅サービス
訪問診療
訪問看護
訪問リハビリ

訪問介護事業所(定期巡回)
居宅介護支援事業所

入所
短期入所
デイケア等

特別養護老人ホーム
常照苑くすのき通り
サンシャイン

デイサービス
通所介護事業
介護予防教室等



デイサービスセンター
ねむの木あたご苑



サービス付き高齢者住宅
輝



ヨコクラ病院のとりくみ

令和6年 診療報酬改定発表後

- ① 今までの協力医療機関との契約書見直し
- ② 毎月の医療介護連携推進会議(いかい会開始)
協力医療機関として施設との連携
- ③ 医療介護連携懇親会の開催
- ④ 緊急往診運用開始
- ⑤ 施設看取りの連携
- ⑥ 関連施設での安診ネット活用 等

協力医療機関契約書

_____ (以下「甲」という。)と、社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院
(以下「乙」という。)とは、次の条項に基づいて委託契約を締結する。

(協力医療機関)

第1条

- 1 この契約は、指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準第20条第2項並びに指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準136条に基づき、緊急時等の対応を行えるものであること。
- 2 この契約は、指定介護老人ホームの運営に関する基準136条に基づき、緊急時等の対応を行えるものであり、医

(相互義務)

第2条 乙は次の点に

- 1 乙は、甲の入所看護職員が相談
- 2 乙は、甲の入所
- 3 乙は、その診療が生じた場合に
- 4 甲の医師又は乙院を原則として
- 5 甲は、入院したに入所させるこ
- 6 甲と乙は1年に1回以上、入所者等の病状に急変が生じた場合等の緊急時の対応について確認を行い、必要に応じて見直しを行う。
- 7 乙は、甲に対し1年に1回程度、感染症対策に関する研修又は訓練を行う。
- 8 甲は、乙の支援を受け入れ、感染拡大防止のための指示に従い適切な対応を行う。
- 9 乙は、その他、甲の入所者等の医療の確保及び感染症対策の観点から、感染症の関連する情報を迅速かつ正確に共有し、必要に応じて妥当適切な協力・協議を行わなければならない。

(協定期間)

第3条 本協定の有効期間は協定日より1年間とし、協定の更新については満了日の1ヶ月前に行う。ただし、甲、乙双方に意義のない場合は、そのまま1年間協定を継続することができる。その後の満了日の場合も同様とする。

(縦義)

第4条 本協定につき縦義が発生したときは、甲、乙協議の上解決するものとする。

(熱中の発行)

当院側より施設へ訪問
再度契約を取り直し
紹介が多い施設へ訪問し新規契約

印

印

協力医療機関 施設一覧

特別養護老人ホーム	老人保健施設	グループホーム	有料老人ホーム	小規模多機能／サ高住
<ul style="list-style-type: none"> ・常照苑 ・常照苑 サンシャイン ・竹里館 ・第二竹里館 ・富寿園 ・富寿園テラス ・敬和苑 ・第二敬和苑 ・ありあけ園 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルテンハイム ・こうわか苑 ・寿苑 ・シャンティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・恵のいえ ・なかま ・あぜ道 ・陽だまり ・ほたる 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つ葉の家 ・のぞえの杜 ・こんびびありて ・菜の花 	<ul style="list-style-type: none"> ・はる風 ・結の実 ・ねむの里 ・太常 ・輝 ・えみうむ瀬高

19施設

↓

28施設へ

※赤字は新規施設

令和6年5月より医療介護連携推進会議 (いかい会)開始 (1回/月)

R6	研修内容	担当
5月	内容説明・情報共有	
6月	ノーリフティング	理学療法士
7月	睡眠薬と認知症薬	薬剤師
8月	緊急往診運用案内	
9月	食事姿勢と嚥下	言語聴覚士
10月	高齢者の低栄養について	栄養士



R7	会場は 120人参加	
6月	市民公開講座 (介護施設にはZOOMにて配信)	整形外科医師による講演
7月	医療介護連携懇親会	病院にて開催

介護施設との情報共有



協力医療機関連携会議	
実施日：令和7年6月25日(水) 場所：ココラ病院外来 時間 11:30~11:45 参加者：今村様(ココラ病院連携室)、河野師氏、中村、榊島	
氏名：■■■■様 昭和12年1月23日生 88歳 女性 入所日：令和6年7月12日	
【現在の状態】 HR40~50台の除脈。R7.6/13 採血 K7.0、倦怠感あるが、高Kの影響か、年齢や認知症の影響が判断しづらい。 カラメート内服中。K制限食。 不整脈なし。	【主病名】 アルツハイマー型認知症 【既往歴】 S62年頃 くも膜下出血 馬場病院 H30年10月 脳梗塞 馬場病院 H31年3月 アルツハイマー型認知症 陳旧性脳梗塞、高血圧症 寺嶋脳神経外科 R1年5月 両下肢静脈瘤 筑後市立病院 R5年7月 本態性血小板血症 筑後市立病院
氏名：■■■■様 昭和11年1月11日生 89歳 女性 入所日：令和6年7月26日	
【現在の状態】 両側慢性硬膜下血腫にてR7.6/13に貴院受診。R7.7/11再診予定。 現在バイタルサイン異常なく、自覚症状なし。(血圧120~130台、脈拍60~70台)	【主病名】 アルツハイマー型認知症 【既往歴】 H30年 アルツハイマー型認知症 つつみ脳神経外科 脊柱管狭窄症 筑後市立病院 高血圧、脂質異常症、便秘症 やまなクリニック

施設ごとの情報提供

利用者一覧
新規入所者の情報共有
空床情報の共有
感染状況の確認



各施設が議事録を作成

有料施設・GH等はそもそもスタッフ数が少なく、ZOOM参加も厳しい
介護施設スタッフ高齢化



定期的に訪問しながら情報共有

令和7年7月医療介護連携懇親会の開催

令和7年度 第12回医療介護連携懇親会

日時：令和7年7月25日（金） 14：00～15：00
（13：30～受付開始）

講話

「地域でつなぐ医療と介護」

～病院から支える包括ケアの深化に向けて～

講師：横倉院長先生

参加者

介護施設：33名

居宅：5名

訪問看護：1名

市役所：4名

当院スタッフ：15名

合計 58 参加

「利用者さんを守る力をつける！
急変時の対応とBLS入門」
講師：田中克典 看護師



緊急往診代行の運用開始(平日のみ)

入所者が体調不良
嘱託医・施設医が不在・・・
スタッフが少なく、
受診にも連れていけない

病院へ相談

施設へ
緊急往診

開始前に
嘱託医・施設医へ訪問し説明

社会医療法人 弘恵会

 **ヨコクラ病院**

登録介護施設へ
協力医療機関が訪問します

代行
緊急往診します。

嘱託医や
かかりつけ医が
対応困難な場合、
ご利用検討ください。

通院が困難な方の施設へ緊急往診に対応します。
地域の頼れる病院になるために、
努力を続けてまいります。
お気軽にご連絡ください。

入院の
お迎えも

15時まで
受け付け



申込手順

電話にて相談	担当から医師へ	訪問診療へ
「往診等で相談したい」とお電話頂ければ、担当看護師が対応します（事前にUbie入力をお願いします）。	担当看護師が担当医に相談内容を報告します。往診の調整を行います。	医師が診察に行きます。お薬処方もします。

診療案内

(訪問時間) 月～土 午前11:00～午後4:00
(電話受付) 月～土 午前9:00～午後3:00

嘱託医不在時の看取り支援体制

当院の協力医療機関の施設のみ対応
近隣の診療所の先生1名が嘱託医担当
嘱託医不在時



当院医師が看取り体制を支援(常勤・当直医師で対応)



事前に連携室にて調整・フローの確認



当日は外来看護師・事務・当直者で対応
(送迎は事務や当直者で対応)

地域で安心した最期を迎えるための支援体制は
ご家族・施設の安心へ

安診ネットによる関連施設との連携



— **Mission** —
医療一介護連携
重度化防止
ICT・ロボット実用

(老健)
アルテンハイム
ヨコクラ

(特養)
常照苑くすのき通り

(特養)
常照苑サンシャイン

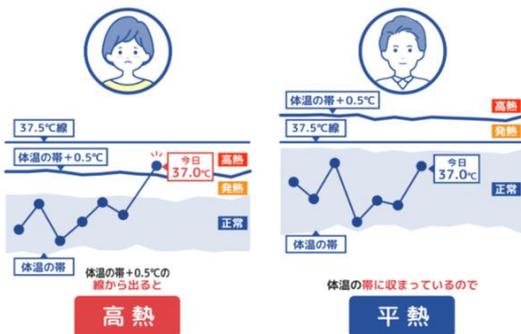
安診ネットって？

安診ネットシステム

高齢者の健康リスクを高精度のAIが見える化し、状態を早期発見
⇒重度化防止するシステム

① 高精度AIによる分析

安診ネットは毎日バイタル（体温）を測定することで、その人の平熱の範囲を作成します。



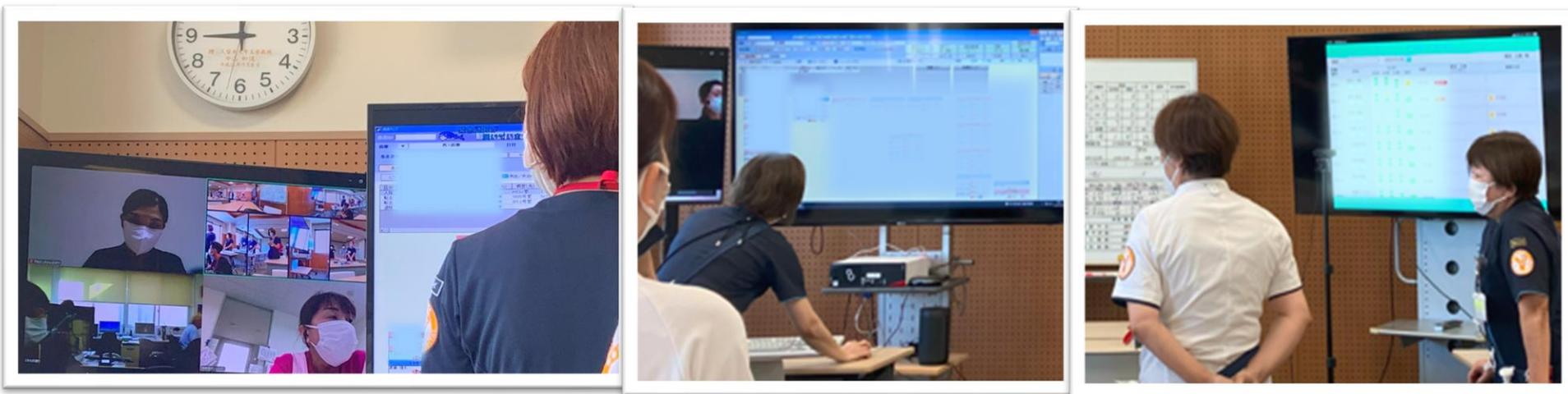
② 要注意者のピックアップ



③ 遠隔での共有が可能



毎日の医一介の情報共有風景



参加者：院長・各病棟師長・部長・連携室・施設の看護師や調整員

- ・各受け入れ状況や空床等の確認
- ・施設からの入院となった患者の状態報告
- ・安診ネットを画面共有しながら、警告・注意となっている利用者の経過報告
 - ⇒ 医師から検査や受診の指示
- ・感染状況や対策の確認 等

患者の**重度化予防** 施設職員への「**安心**」

終わりに

- ・ 今後も地域の福祉施設と連携しながら、医療的な側面からの支援を行い、地域住民の安心・安全を支える
- ・ 地域に求められる医療機関としての役割を自覚し、継続的な連携と支援体制の構築に努める